

絵文字の文法は S+V+O もしくは S+O+V ?

(ポジションペーパー)

宗森 純 ムンヤティ ヤティド 伊藤淳子

和歌山大学システム工学部デザイン情報学科

1. はじめに

これまで絵文字のみで異なる母国語の人がコミュニケーションをとる実験を行い、簡単な会話なら絵文字のみで70%程度は理解できることを明らかにしてきた[1]。現在、携帯情報端末(PDA)に絵文字チャットを実装して、世界各地で実験をおこなっている[2],[3]。実験から、絵文字での文章の書き方が「主語+述語+目的語(S+V+O)」もしくは「主語+目的語+述語(S+O+V)」の2通りあることがわかってきた。日本人でも本来はS+O+VだがS+V+Oと書く場合もあった。そこで日本語と英語で定型の文章を示し、これをいろいろな国の人に絵文字で書いてもらい、その結果を分析したところ、絵文字による文章作成の柔軟性が明らかになってきたので、これを報告する。

2. 実験システム

絵文字チャットコミュニケーターの画面を図1に示す。上部はチャット画面である。下部には絵文字画面があり、タブをタップして絵文字画面を切り替えることによって、全ての絵文字を選択できる。数字も入れて絵文字は80個ある。両者間にある絵文字の入力フィールドへは1回のタップで絵文字を追加できる。入力フィールドにある絵文字の削除や挿入は容易に行える。PDAにはSONY CLIE PEG-NZ90を用いている。



図1 絵文字チャットコミュニケーター

3. 実験

紙に日本語もしくは英語で書かれた定型の文章(図2)を見せ、絵文字チャットコミュニケーターもしくは紙に絵文字を並べて記述してもらった。紙での実験は図2の用紙を見せて絵文字に対応する番号(1番から80番)を記入してもらっている。

実験	
名前と国籍「 年齢、 性別」	
(1)	私はケーキを食べます。
(2)	私は冬が好きです。
(3)	私はお花が好きです。
絵文字	

図2 日本語のアンケート

日本語によるアンケートは紙で行い、日本人13人、外国人12人である。外国人はマレーシア人4人、中国人4人で、アフリカ人、オーストラリア人、韓国人とアメリカ人は1人ずつである。英語のアンケートは日本人12

人（10人は紙、2人はPDA）、外国人は16人（11人は紙、5人はPDA）で、外国人のうち紙で実験を行ってもらったのは中国人3人、アメリカ人2人、マレーシア人2人、韓国人、オーストラリア人、インドネシア人とウルグアイ人は1人ずつである。PDAで行ってもらったのは韓国人2人、チリ人、トルコ人と中国人は1人ずつである。

4. 実験結果と考察

実験の結果を表1（PDAと紙の全実験結果）に示す。表1では「S+V+O」、「S+O+V」とその他（1文字のみ、同じ絵文字を使っている場合など）に分類した。

表1 PDAと紙での実験結果

	S+V+O		S+O+V		その他	
	日本語	英語	日本語	英語	日本語	英語
日本人	17 個 44%	22 個 61%	18 個 46%	6 個 17%	4 個 10%	8 個 22%
外国人	4 個 11%	22 個 46%	21 個 58%	12 個 25%	11 個 31%	14 個 29%
韓国人	0 個 0%	3 個 43%	2 個 67%	2 個 29%	1 個 33%	2 個 29%

英語、中国語の文章は通常はS+V+Oである。逆に、日本語、韓国語の文章はS+O+Vである。

表1の英語のアンケートでは絵文字の並び順はS+V+Oがいずれの国の人でも多い。特に日本人が英語のアンケートでS+V+Oの順番（61%）で絵文字を並べるのは日本語のアンケートでS+V+Oの順番（44%）で絵文字を並べると比べると多くなっている。また、日本人は英語のアンケートではS+O+Vの並び順は著しく低い（17%）。日本人の被験者になぜこのように並べたかと聞くと、英語の文章を参考

に並べたという意見があった。つまり、質問された文章の順序で絵文字を並べることもあることが推測される。

同様に、日本語のアンケートの場合は絵文字の並び順はS+O+Vが多い。日本人はそのまま並べたという意見があった。また、日本人より外国人の方がS+O+Vの順番で絵文字を並べることが多い。外国人も日本語の文章の順番をそのまま絵文字に置き換えているのではないかと推測される。

5. おわりに

実験結果から、絵文字の主語、動詞、目的語の並び順は、日本語で質問するとS+O+V、英語で質問するとS+V+Oが多くなり、記述（質問）された言語の順に影響されることが大きいことが分かった。これより、前の人のチャットを見て、それに影響されて絵文字を書くことが推測される。この柔軟性が絵文字による文章の理解のしやすさを示している様に推測される。今後は長い文章の場合、絵文字の並び順はどうなるのか等を検討する。

謝辞

本研究の一部は日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究(B)、研究課題番号183000043、「センサーと絵文字によるチャットコミュニケーションが相互の理解度向上に及ぼす影響」）による。

参考文献

- [1]宗森 純, 大野純佳, 吉野 孝: 絵文字チャットによるコミュニケーションの提案と評価, 情報処理学会論文誌, Vol.47, Np.7, pp.2071-2080 (2006).
- [2]宗森 純, 宮井俊輔, 伊藤淳子: 絵文字チャットコミュニケーター, FIT2006, LK_017, pp.321-322 (2006).
- [3]宗森 純, 伊藤淳子: 絵文字チャットコミュニケーション, グループウェアとネットワークサービスワークショップ2006, pp.71-72 (2006).